A white computer keyboard is visible in the upper right corner, partially obscured by a black stethoscope. The stethoscope is positioned diagonally across the frame, with its chest piece resting on the keyboard and its earpieces extending towards the bottom right. The background is a plain, light-colored surface.

生活習慣病をもつ ショッパーの購買行動調査 【ASI研究会】

November 25th, 2020
SUGIMOTO Yukari

経済産業省のヘルスケア産業による市場規模予測（2025年）



2019年度医療費は対前年約1兆円増の過去最高額43.6兆円



公的保険

医療費

52.3兆円

福祉費

24.1兆円

109.5兆円

健康保持・
増進

12.5兆円

患者等の
生活支援

20.6兆円

公的保険外サービス産業



国家予算（一般会計）約103兆円
社会保障費は35%
特別会計は200兆円程度



ヘルスケア市場は今後ますます拡大し、巨大な市場へ成長する

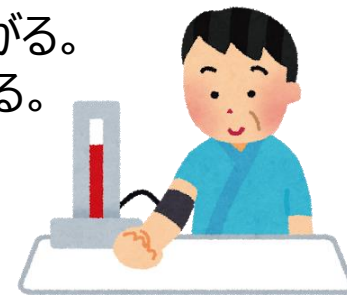
出典：経済産業省2018

民間事業者の活用可能性を広げるため、生活習慣病に焦点をあて次世代ヘルスケア産業協議会が発足

ヘルスケアマーケットを把握するためには、
日本国民の多くが経験する『生活習慣病を含めた慢性疾患』患者の理解が重要である

主な生活習慣病の患者数

- 慢性疾患への適切で定期的な対応は、国民の生活を支えることにつながる。
- 早期に適切な指導を受け治療を開始することで重症化を防ぐことができる。
- **COVID-19感染症の重篤化にも関連**



【高血圧】

- 総患者数は1,010万8,000人（男性445万人、女性567万6,000人）
- 予備軍を含めると3,970万人（推定）
- 高血圧性疾患の年間医療費は1兆7,907億円

【糖尿病】

- 有病者と糖尿病予備群は各々約1,000万人と推計
- 糖尿病の年間医療費は1兆2,239億円

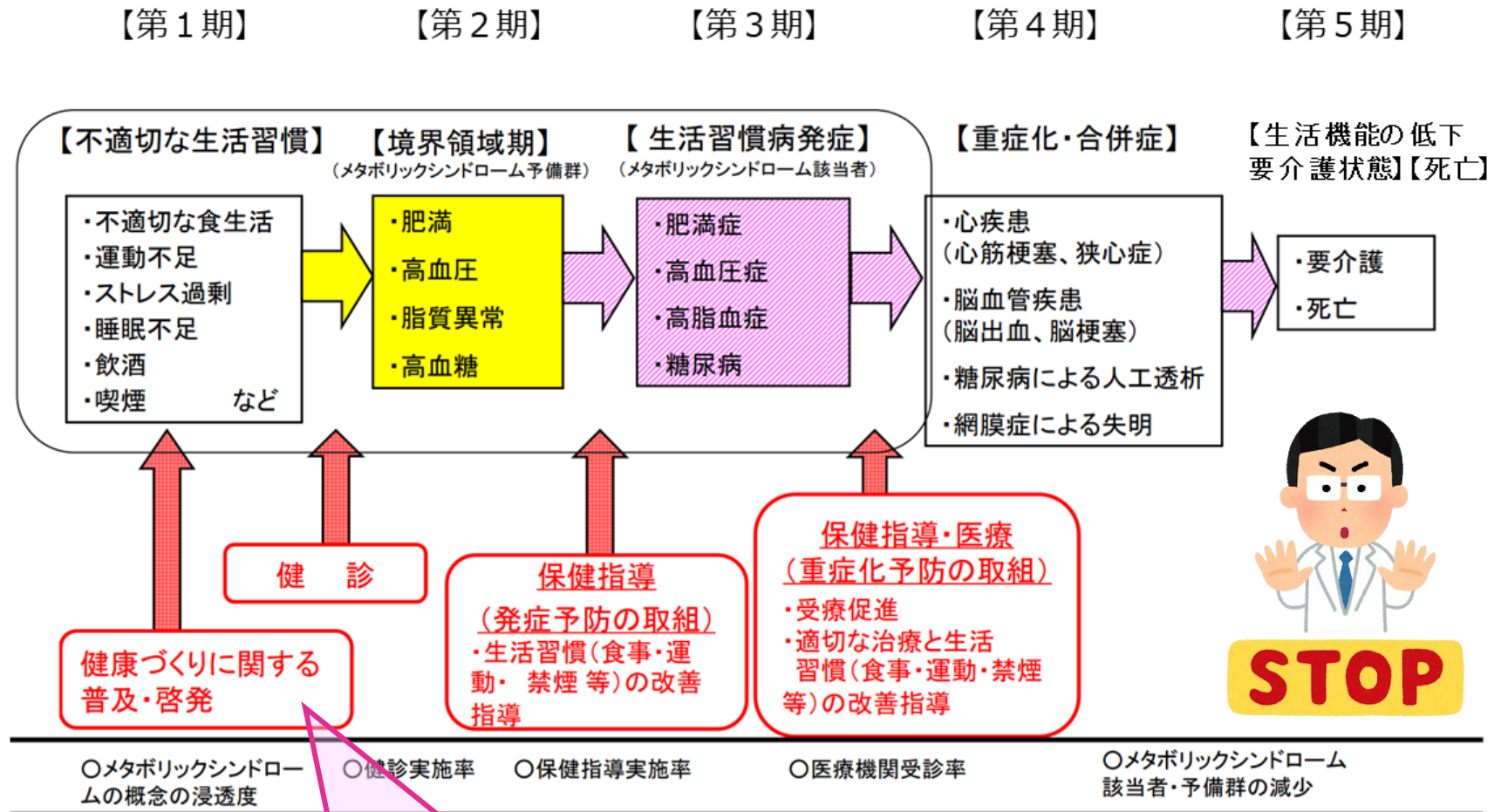


【脂質異常症（高脂血症）】

- 患者数は、220万5,000人（男性63万9,000人、女性156万5,000人）
- 予備軍を含めると4,220万人（推定）

一般社団法人 日本生活習慣病予防協会（2020）調べ

糖尿病等の生活習慣病の発症予防と重症化予防の流れ



第1期に関与できるよう施策を検討する

出所) 厚生労働省生活習慣病対策室 (2013)

糖尿病患者の食行動に関する研究

- 糖尿病はその病態により2種に分類される。
 - ①膵臓からの絶対的インスリン分泌不全による**1型糖尿病**
 - ②主として食べ過ぎや運動不足のために相対的インスリン不足となる**2型糖尿病**
- 日本人の糖尿病の95% は、食べ過ぎと運動不足による2型糖尿病である。
- HbA1c は血糖コントロールの指標であり、将来の合併症の予測因子である。高血糖状態が長期間続くと、血管内の余分なブドウ糖は体内の蛋白と結合する。この際、赤血球の蛋白であるヘモグロビン（Hb）とブドウ糖が結合したものがグリコヘモグロビンである。このグリコヘモグロビンには何種類もあり、糖尿病と密接な関係を有するものが、HbA1cである。
食事療法の成否は血糖コントロールの良否を決定する1つの要因と考えられる。
- BMI(Body Mass Index : ボディマス指数) とは、体重と身長の関係から算出されるヒトの肥満度を表す体格指数である。
- 食事療法は患者個人の**摂食行動に大きく左右される。**



- BMI 高値群は、食行動特性の全てのカテゴリーに関係している
- HbA1c と食行動特性、心理学的特性との相関を検討すると、満腹感、食事内容との間で正の相関が認められた

食行動特性	
空腹感・食動機	<ul style="list-style-type: none"> ● 外食や出前を取る時に多めに注文してしまう ● 食料品を買う時には必要量よりも多めに買っておかないと気が済まない ● 料理を作るときには、多めに作らないと気が済まない ● 空腹を感じると眠れない ● 食後すぐでも次の食事のことが気になる
代理摂食	<ul style="list-style-type: none"> ● 空腹になるとイライラしてつい食べてしまう ● 身の回りにいつも食べ物が置いてある ● 他人が食べているとつられて食べてしまう ● 連休や盆、正月にはいつも太る
満腹感	<ul style="list-style-type: none"> ● 料理が余るともったいないので食べてしまう ● 食後でも好きなものなら入る ● 食べ過ぎを他人によく注意される ● たくさん食べてしまった後で後悔する ● お腹いっぱい食べないと満腹感を感じない
食べ方	<ul style="list-style-type: none"> ● 食べるのが早い ● 食事の際、ご飯から食べる ● あまり噛まない
食事内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 魚料理より肉料理が多い ● 菓子パンをよく食べる ● 外食や出前、お惣菜をよく利用する ● 濃い味が好きである ● 野菜を意識して食べることは少ない ● 油っこいものが好きである
リズム異常	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝が弱い、夜型人間である ● 夜食をとることが多い食事の時間が不規則である ● 昼食や、夕食前に間食を少し食べることがある ● 食事の時間が不規則である
体質に関する認識	<ul style="list-style-type: none"> ● 他人よりも太りやすい体質であると思う ● 水を飲んでも太る方だ ● 小さい頃からよく食べる方だった

辻久美子, 福田正博, & 倭英司. (2016). 糖尿病患者の臨床指標に影響を与える食行動特性および心理学的特性の解析—行動経済学的アプローチ—. 糖尿病, 59(2), 114-120.



第3回調査の実施要領（案）

- 調査日：2020年度内（3月までの2日間）＊COVID19の状況次第
- 調査場所：いなげや新狭山駅前店様
- 対象者：糖尿病患者6名（高群低群各3名），高血圧症患者5名
40代から60代の女性（検討）
- 調査手法：感性アナライザー、レコーダー、カメラを装着の上買い物をしてもらう。
その後、認知バイアステスト等の実施、非構造化面接によるデプスインタビュー調査を実施する（検討）
- メニュー（買い物テーマ）は当日被験者に伝える。

第3回調査の概要

【目的】

- 多くの国民が罹患する生活習慣病（糖尿病，高血圧症）の患者を対象としてスーパーでの購買行動を確認し，仮説生成のための調査を実施する。
- 疾患を意識した購買がおこなわれているのか
- 疾患による衝動購買の傾向があるのか
- 疾患と情報処理の個人特性に傾向があるのか？
- 疾患により購買行動での感情や感性は異なるのか？
- 一般のショッパーと疾患をもつ方では、購買行動の違いがあるのか？

- 本調査により、生活習慣病をもつショッパーによる購買行動の現状を把握する。
- 本調査により、POP、売場、棚、パッケージなどと疾患の関係を確認する。
- 非計画購買におけるの感情の仮説について検討をおこなう。

購買行動類型

